

【短報】ホウオウコメツキの追加記録と生息環境

ホウオウコメツキ *Houwau alpicola* Kishii, 1993 は、山梨県からの1雌個体をもとに記載され、その後長野県から2雄3雌個体(有本, 2005)、岐阜県から1雌個体(大平・豊島, 2010)が記録されているのみの1属1種の珍種である。筆者は長野県では2報目となる本種個体を採集しており、採集地点は有本(2005)においてすでに報告されている場所ではあるが、本種の生態解明の一端として報告することとした。

1♀, 長野県南佐久群八千穂村麦草峠(標高2,100 m), 15. VII. 2012, 筆者採集・保管(液浸標本)。

本個体は、立ち枯れたコメツガ *Tsuga diversifolia* の樹皮下(図1)から採集したものである。採集地周辺はシラビソやオオシラビソ、トウヒ、コメツガなどが優占する針葉樹林帯で、高層湿原が広がっており湿潤な環境にある(図2)。

Kishii(1993)や有本(2005)で用いられた個体がどのような経緯で採集されたのか詳細は不明であるが、大平・豊島(2010)の個体は衝突板トラップ(FIT)で採集されたものであり、トラップ以外の



図1. ホウオウコメツキが採集された立ち枯れ。



図2. 採集地環境。

方法で採集された報告は今回が初めてのことである。これまでの採集状況から、幼虫は樹皮下で育ち、成虫は羽化後もしばらくは樹皮下に潜伏し、6月下旬頃から野外に出現して、7月末頃まで発生していると予想される。採集されている地点は中部地方の標高1,800~2,500 mの間であり、本種が亜高山帯針葉樹林にのみ分布していることは確実である。本属が含まれるツヤケシコメツキ族 *Megapenthini* は東南アジアの熱帯林に分布の中心を持ち、本属のように針葉樹林帯にのみ分布する事例は、日本産の本族他種と比較しても非常に特異なものである。

引用文献

- 有本久之, 2005. ホウオウコメツキ雄の形態について. 甲虫ニュース, (150): 19-20.
 Kishii, T., 1993. A new *Megapenthini* in the generic and specific status (Coleoptera, Elateridae). Some new forms of Elateridae in Japan (XXIX). The entomological review of Japan, 48(2): 87-91.
 大平仁夫・豊島健太郎, 2010. ホウオウコメツキ岐阜県に分布. 甲虫ニュース, (169): 5.

(有本晃一 812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1 九州大学大学院生物資源環境科学府昆虫学教室)

【短報】九州・琉球地方におけるコメツキダマシ科甲虫2種の記録

筆者らはコメツキダマシ科甲虫を調査する中で、各地で未記録の種、記録の少ない種を得ているため、ここに報告する。

1. コガタフチトリコメツキダマシ *Microrhagus mystagogus* (Fleutiaux, 1923)

フチトリコメツキダマシ属 *Microrhagus* は、日本から4種が知られており、雄の触角が顕著に櫛状になることで他属から容易に識別できる。北海道から九州まで広く分布しているが、九州以南ではトカラ中之島から本種が記録されているのみである(久松, 1985, 1989)。筆者らは沖縄島で得られた本種個体を検する機会を得たので、初記録として報告しておく。

1♂, 沖縄県国頭郡国頭村辺野喜, 340 m alt., 26. V. 2011, 有本晃一採集・保管(液浸標本); 1♀, 沖縄県国頭村辺野喜伊江林道, 22. IV. 2006, 有本久之採集, 有本晃一保管。

筆者らが採集した個体は照葉樹林内に設置した4ワット蛍光灯に飛来したものである。本種は同属

他種とは、前胸背板前隆線が前胸の1/3に達さず、側隆線が前胸の基部2/3程度まで伸長することで区別できる(久松, 1985)。

2. ハチジョウチャイロコメツキダマシ *Fornax hachijonis* Hisamatsu, 1963

本種は、伊豆諸島(八丈島, 三宅島), 小笠原諸島(母島, 父島), 対馬, 大隅半島, 種子島, 屋久島, 琉球列島, 台湾(蘭嶼)から記録されている(城戸・小田, 2008; 鈴木, 2009, 2010)。九州本土からは城戸・小田(2008)において1個体が記録されているのみであったが、九州本土で本種を複数個体得ているため、追加記録としてここに報告しておく。さらに、久松(1985, 1989)において琉球列島が分布域に含まれているが、具体的な島名が示されたことはないため(鈴木, 2003), 奄美大島と石垣島で採集した個体も合わせて記録しておく。

7exs., 鹿児島県肝属郡南大隅町佐多辺塚, 18~19. VII. 2009, 有本晃一採集・保管; 1ex., 鹿児島県肝属郡南大隅町佐多辺塚, 217 m alt., 1. VII. 2011, 有本晃一採集・保管; 2exs., 鹿児島県奄美市名瀬知名瀬, 10-13. VII. 2010, 有本晃一採集・保管; 1ex., 沖縄県石垣市於茂登岳, 1. VII. 2009, 有本晃一採集・保管。

チャイロコメツキダマシ属 *Fornax* は日本から6種が知られているが、本種は触角第4-5節が著しく短小であることで他種から容易に識別できる。

引用文献

- 城戸克弥・小田正明, 2008. 鹿児島県大隅半島産の甲虫4種の記録. 月刊むし, (454): 13-14.
 鈴木 互, 2003. ハチジョウチャイロコメツキダマシの採集記録. 甲虫ニュース, (142): 10.
 鈴木 互, 2009. FITにより採集された伊豆諸島三宅島のコメツキダマシ. 甲虫ニュース, (168): 17-18.
 鈴木 互, 2010. 対馬おけるコメツキダマシ. 甲虫ニュース, (172): 11-12.
 久松定成, 1985. コメツキダマシ科, p. 42-51, pls. 8-9. 黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之編著. 原色日本甲虫図鑑(III), 514 pp. 保育社, 大阪.
 久松定成, 1989. コメツキダマシ科, p. 346-348. 九州大学昆虫学教室・日本野生生物研究センター・共同編集. 日本産昆虫総目録 I, xiii + 540 pp. 九州大学農学部昆虫学研究室, 福岡。

(有本晃一 812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1
 九州大学大学院生物資源環境科学府昆虫学教室)
 (有本久之 大阪市)

【短報】地表性コメツキムシ3種の食性の観察

地表性コメツキムシとされている種は、地上を歩行しているものや、石や地上に落ちている木材、ゴミなどの下にいるのが見つけられることが多いが、生態的なことはあまり報告されておらず、特に食性について纏めた報告はないと思われる。筆者らは沖縄島で観察した下記の3種について報告する。

報告にあたり、種の同定と生態の知見について有本久之氏にお世話になったことを明記してお礼申し上げる。なお、図1および図2は楠井、図3および図4は宮城が撮影した。

1) トカシキヒラタチビコメツキとウラベチビコメツキ

沖縄県那覇市の市街地中央に位置する新都心公園に、数本のオガサワラタコノキ *Pandanus boninensis* Warb. が植えられていて(図1)、地上に落下した果実から出る果汁にトカシキヒラタチビコメツキ *Heteroderes kusuii* Ohira, 1994(図2)とウラベチビコメツキ *Babadrasterius urabensis* Ohira, 1994が集まっていた。

1♂1♀(トカシキ), 2exs. (ウラベ), 24. V. 2013; 3exs. (トカシキ), 3exs. (ウラベ), 26. V. 2013; 1♀(トカシキ), 27. V. 2013; 1♂1♀(ウラベ), 30. V. 2013。

2種の記録はすべて楠井が果実で採集した個体数であるが、観察と撮影のために、また継続して観察するつもりでいたため目撃したすべての個体を採集したわけではない。特にウラベチビコメツキは小さく動きが速いので、かなりの数をとり逃している。

オガサワラタコノキは国内外来種で、その名にあるように小笠原諸島から観葉植物や街路樹として沖縄島に移入されたものである。果実は大きな球状の集合果で、熟して一片ずつが離れて落ち、親樹の根元の地面にころがっていた。

沖縄には在来種で本種と同属のアダン *Pandanus odoratissimus* L. fil. があり、同じような大きな集合果が実る。果実も同じように地上に落下するが、落下する一片がやや小さく、地上での乾燥が早くて果汁が得られないためか、これらの種が集まっている様子は観察できなかった。

なお図2には、オキナワマメコガネも写っているが、本種については別に発表の予定である。

2) アマミヒメサビキコリ

沖縄島東村高江においてアマミヒメサビキコリ *Agrypnus (Colaulon) amamianus* (Kishii, 1974) がアカマタ *Dinodon semicarinarum* (Cope, 1860) (ナミヘビ科, マダラヘビ属) の死体にきて肉を食べているのを夜間(22時49分)に観察した。